

## 移動教室の夜

ぼくは、今、二泊三日の移動教室にきている。学校のみんなと行く初めての宿泊旅行なので、前から楽しみにしていた。部屋ごとに、各自分担する係があり、ぼくは食事係だった。

初日、お風呂に入ると、夕食まで少し時間があつた。家へ出すはがきを書き終わり、くつろいでいたとき、となりの部屋の入浴係が、

「この部屋の入浴係はだれ？集合時間だよ。」  
とよびに来た。

入浴係は清だった。入浴係とは、ふろ場の後かたづけをする仕事で、みんなが入り終わった後、ふろ場と脱衣所をチェックして、かたづけたりわすれ物を調べたりする係である。

清は、今までふざけていて、ようやくはがきを書き始めたところだった。清は、  
「えっ、まだ、はがきを書き終わってないのに。」

と言って、明の方を見た。明と清は、仲のよい友達同士で、いつも一緒に行動している。

清は明るいムードメーカー、明は何でもできるしっかり者でよいコンビだ。

「明、代わりに行つてよ。たのむ。まだ、はがきを書き終わってないんだよ。」

明はにこつとすると、

「うん、いいよ。」

と言って、ふろ場のかたづけに出かけて行った。

二日目のお風呂の後のことだった。この空いている時間に、今日の出来事をしおりに書くことになっていた。ぼくたちは書き終わったが、清は、ようやく書き始めたばかりだった。

そこへ入浴係の集合がかかった。清は、

「明、今日も入浴係の仕事代わつて。なっ、いいだろう。しおり書くの終わっていないんだよ。」

明は、心の中で（えっ、またかい。しおりを終わっていないんだから先生に怒られるから困っているんだな。でも、いつも代わつてあげるのもな……。どうしよう。）と思っていました。

※赤字は、追加した文章